
目次

【01】 外国人相談のあり方に関する基礎調査の結果について

【02】 事業報告

- 市町村との共催による外国人向け一日相談会
- とよなか国際交流協会 コミュニティ通訳ボランティア研修（OFIX共催）
- 第22回 ワン・ワールド・フェスティバル
- 海外留学フォーラム
- 大阪府海外移住家族会の講演会
- 留学生のためのキャリアカウンセリング（就活ソニックin/ハルカス）

【03】 お知らせ

- OFIXの公式Facebookページの開設

【04】 大阪府外国人情報コーナー

- 平成27年4月1日から入管法が変わります

【05】 新人スタッフ紹介

- はじめまして

【06】 JICAボランティア活動報告

- JICAボランティア帰国報告会

【01】 外国人相談のあり方に関する基礎調査の結果について

OFIXでは、在留外国人1,000人以上等の24市を対象に、市町村又は市町村国際交流協会において、順次外国人相談窓口を設置していくための有効な戦略について方向づけることを目的に、府内における外国人相談のあり方に関する基礎調査を実施しました。アンケート、ヒアリングに加え3回の全体会議を実施し、ご協力いただきました皆様にはお礼申し上げます。

調査の結果、外国人相談は、相談窓口の設置されている市と未設置の市では、事業への考え方に大きく隔たりがあり、二極化しているように思われました。

相談窓口設置済みの市では、外国人のキーパーソンの発掘という運営面の配慮まで思いが及んでいるのに対し、未設置の市では、そもそも外国人のニーズ把握そのものができていないという状況でした。

相談内容の傾向としては、もともと相談が多い在留資格等に加えて、国民健康保険の保険料や制度に関する相談が増加するとともに、医療のほか、学校や保育、税金、公営住宅、転出入等に関する手続きなど暮らしに関する相談が多く、またDVや離婚、養育、失業など

相談内容の複合化が進んでいる状況でした。

事業推進にあたっては、外国人相談窓口の相談員が市役所内各課等に出向いて対応したり、未設置の市では、外国人相談が多い窓口で事前に申請書の記入例を英語で用意するなどの工夫がみられました。

広報に関しては、相談窓口では多言語による情報提供を実施しているということでしたが、多言語化への限界や相談窓口設置の有無に関わらず共通した悩みとして、外国人へいかに情報を届けるかが挙げられました。なお、広報資料やポスターは、日本語教室や公共施設、教会、エスニックレストラン等への掲示が効果的とのことでした。

課題としては、外国人コミュニティ、ボランティア、自治会など外国人につながる場所からのキーパーソンの発掘、母語で対応できる相談員等人材の確保のほか、行政情報や防災情報等の外国人住民への情報ルートの不足等が挙げられました。また、多言語版防災ガイドや防災マップ等の作成のほか、外国人向け防災訓練等、関心の高い新しい共通のテーマとして防災、災害時対策が挙げられました。共通の課題では、一日相談窓口の拡充をはじめ、各地域のニーズに応じて提供する府域の共通基盤（担当者の連絡会議等）については、今後とも充実してほしいという結論でした。

OFIXとしては、本調査結果を参考に、さらに、一日相談会や災害ボランティアの充実等に取り組んでいきたいと考えています。

なお、報告書についてはOFIXのHPからダウンロードしていただけます。
(<http://www.ofix.or.jp/pdf/news20150120.pdf>)

【02】 事業報告

■ 市町村との共催による外国人向け一日相談会

OFIXでは府内の外国人に対し、9言語で情報提供や相談業務を行っています。広域的な外国人向け窓口として、2人の相談員を置いて幅広い問合せに対応しています。昨年度このコーナーに寄せられた問い合わせは約1400件あり、そのうち33%が市町村の業務に係わる事柄を占めています。在住外国人にとって身近な市町村等で情報の入手や相談ができれば、より安心、安全な生活を送ることができると考えます。これから多くの外国人が府内で生活をすると見込まれますので、地域の外国人住民の声に耳を傾けて、多文化共生の受け皿の整備の布石として一日相談会の共催事業をこれからも続けて提供していきます。

なお、平成26年度市町村と共催で実施した外国人向け相談会は次のとおりです。

- 10月25日（土）（公財）とよなか国際交流協会（英、中、韓、ポ、スペイン、タイ、フィリピン、インドネシア）
 - 10月28日（火）（特活）泉佐野市地球交流協会（英、中、ポ）
 - 11月18日（火）池田市役所（英、中、韓、インドネシア、スペイン、ポ、タイ、ベトナム）
 - 1月25日（日）（公財）吹田市国際交流協会（英、中、韓、タイ〔スペイン、ポ、ベトナム〕）
 - 2月1日（日）河内長野市国際交流協会（英、中、スペイン、ポ）
- *〔 〕内は電話相談 ポはポルトガル語

相談会の内容や対応言語は各団体が事前の聞き取りなどでニーズがあると判断したうえで、OFIXと協議をして決定しました。すべての相談会終了後の2月19日に開催したOFIXと実施5団体による振り返り会議では、開催の方法、広報の仕方など反省点や改善点を盛り込んで発表する場となりました。また府内の市町村、国際交流協会がそれぞれの専門分野と順番を決めて持ち回りで実施してはどうかという提案もされました。

外国人住民にとってより利用しやすい相談会を市町村の枠にとらわれず開催することも視野にいて、この事業を発展させていきます。

■ とよなか国際交流協会 コミュニティ通訳ボランティア研修 (OFIX共催)

豊中市の在住外国人の方々が安心して暮らせるように、コミュニケーションの橋渡しをするコミュニティ通訳ボランティアの養成を目的とした研修を1月16・23・30日に実施し、参加者は5言語24人となりました。

3回の研修では外国人の方を取り巻く現状及びボランティア制度についての講義を皮切りに、神戸女学院大学 講師の園崎寿子氏を講師に招き、コミュニティ通訳者としての心構え等を教えていただきながら、実際の派遣場面を想定した模擬通訳も体験しました。簡単なことでも意外と表現しにくい単語があることや、通訳がうまく進まない時の対応等を学びました。

参加者からは「来日まもなく妊娠、出産、育児をされる外国人女性が多い現状を聞き、同じ母親として少しでもお役にたてたらと思った。」「通訳の実践練習は緊張してむずかしかったが、場をこなすことのたいせつさを感じた。語学力以外に、経験、準備が必要だと改めて思った。」などの声が聞かれました。

■ 第22回 ワン・ワールド・フェスティバル

出会い、ふれあい、学びあいをテーマに1993年から毎年開かれている、国際社会が抱える課題に対して国際協力のたいせつさ等を広く市民の方々に知ってもらうイベント、ワン・ワールド・フェスティバルが2月7日（土）8日（日）に開催されました。

今年は関テレ扇町スクエア、北区民センター、扇町公園での開催となり、ボランティア参加者は2日間で延べ389人、173団体が参加し、来場者は26,000人（昨年度17,500人）で、たいへん盛況となりました。NGOやNPOを中心とした活動紹介や、民族料理の模擬店、トークセッションや映画上映など多岐にわたり、多くの皆さんが楽しめました。メインステージでは、ボビー・オロゴンさんらによって、途上国の様子や現地で活躍する日本人、現地の人々の暮らしの紹介が行われました。また、道端カレンさんをメインゲストに迎え、国際協力のはじめ方について外務省やJICAによるトークセッションが行われました。

■ 海外留学フォーラム

大阪府国際化戦略実行委員会が実施している「おおさかグローバル塾」の説明会にあわせ、2月8日（日）にマイドームおおさかで「海外留学フォーラム～将来のNew Horizonへ～」を開催しました。

今年のフォーラムでは、おおさかグローバル塾英国・米国コースの卒業生等5人の方を発表者として招きました。グローバル塾の卒業生は当塾の海外研修で経験したことについて、フィリピンに留学経験のある大学生は留学した時に発見したことについて、またドイツからの留学生は日本での留学と海外留学に対する想いについて発表しました。その後、学生の頃から声楽家として世界を舞台に活躍しておられる社会人の方をパネラーに加えてディスカッションを行いました。

フォーラムには約130人の参加があり、若者のみならず保護者の方も興味深々でパネリストの皆さんの話を聞き、フォーラムが終わってからも質問をされていました。終了後のアンケートでは、「留学や自分の将来について、もっと考える良いきっかけとなりました。」「留学に前向きになれた。」、保護者からも「とても貴重な体験談を聞かせてくれてありがとうございました。」などの声が寄せられました。

フォーラムの映像がインターネットのYouTubeで見られます。

(<https://www.youtube.com/user/osakaglobal/videos>)

■ 大阪府海外移住家族会の講演会

2月18日（水）にマイドームおおさかで大阪府海外移住家族会の講演会を開催しました。

会員の佐藤光昭さんによる「日本人学校と日本語学校」と題する講演をいただきました。佐藤さんは、1991年から3年間パラグアイのアスンシオン日本人学校校長に赴任された後、一旦帰国され、その後再びパラグアイのラパス校等5つの日本語学校で、日系社会シニア・ボランティア日本語教育担当としてご活躍されました。

書道の授業や小学校1年から中学生までの、全校生徒がバスで数日間にわたり遺跡等を回る移動教室、現地学校の学生との交流や相撲大会、敬老会等の行事を通じての移住者とのふれあいをわかりやすくお話いただきました。

また、ブラジル、リオデジャネイロ日本人学校に赴任された瀧健三さんからも、学校生活の様子について紹介していただきました。ドイツや米国からの移民が多いブラジルでは、生徒の国際化のため、サッカー等のスポーツを通して、現地校同士の交流が活発に行われていたとのことでした。

会員からは当時を懐かしむ声も聞かれ、日系人の教育事情や外国語としての日本語教育のありかたを考える有意義な講演会となりました。

■ 留学生のためのキャリアカウンセリング（就活ソニック inハルカス）

平成28年卒業予定者向けの就職活動が従来よりも3か月遅い

3月1日からはじまります。これに先がけ、大阪府中小企業団体中央会等が主催する就活ソニックinハルカスが2月14日（土）に開催されました。近畿の大学等に在籍する学生に対し、就職活動開始前に地域中小企業の業界理解を促すことを目的とするもので、会場には753人（日本人学生728人、外国人留学生25人）が来場されました。OFIXでは、平成23年度からオリオン寮で留学生のためのキャリアカウンセリングを実施していますが、今年度は初めての試みとして、この事業に共催しました。

留学生のためのキャリアカウンセリングのブースには、16人の方が訪れ就職活動をするうえでのメンタル的なことや、就職時に必要な在留資格取得に関すること等についての相談がありました。会場をオリオン寮から広いステージに移したことにより、過去最高の参加者数となりました。また、外国人留学生向けの「日本語ビジネスマナー講座」や「面接の心得講座」にも参加され3月1日の就職活動解禁に向けて、たくさんの方の事を学んで行かれました。

【03】 お知らせ

■ OFIXの公式Facebookページの開設

OFIXは、2月3日から公式Facebook（フェイスブック）ページを開設しました。

事業に関するお知らせや留学生会館の入居者募集、ボランティア情報などを発信していきます。

OFIXのFacebookページ内の「いいね！」ボタンを押していただくことで、ご自身のFacebookページに最新情報が掲載されます。

(<https://www.facebook.com/osakafoundation>)

【04】 大阪府外国人情報コーナー

■ 平成27年4月1日から入管法が変わります

高度な技能を持つ外国人の日本定住化を促進する改正出入国管理・難民認定法が4月1日から施行されます。新たな在留資格「高度専門職」が創設されるとともに、永住許可取得に必要とされている在留期間は原則10年ですが、認められればこれを在留3年で在留期間が無制限となり、活動の制限も緩和されます。

主な改正点は次の3点です。

- ① 在留資格「投資・経営」→「経営・管理」
外資系企業の経営管理に限られていた資格を国内資本企業の経営管理を行うことができるように拡大されます。
- ② 在留資格「技術」「人文知識・国際業務」→「技術・人文知識・国際業務」

文系・理系に基づく「技術」と「人文知識・国際業務」の区別をなくし、包括的な「技術・人文知識・国際業務」へと一本化されます。

- ③ 在留資格「留学」の対象拡大（平成27年1月1日から施行）
小学生、中学生の留学生にも在留資格「留学」が付与されます。

【大阪府外国人情報コーナー】

対応時間：9時から17時30分（月曜から金曜）

相談直通電話：06-6941-2297

対応言語：英語、韓国・朝鮮語、中国語
ポルトガル語、スペイン語、タイ語
フィリピン語、ベトナム語、日本語

【05】 新人スタッフ紹介

■ はじめまして

昨年10月からOFIX外国人情報コーナーの相談員（非常勤）に着任いたしました常見仁美と申します。これまではフリーランスとして、通訳、翻訳、通訳ガイド、英語講師などの仕事をしてまいりました。また以前からOFIXの登録通訳・翻訳員として関わっておりました。

学生時代に1年間の交換留学生として、また結婚後も数年米国に滞在しておりましたので、外国で暮らすなかで、習慣、食事、人間関係、心細さなど生活面での苦労をひととおり経験しました。

その都度、周りにいた人たちに助けられてきたこともあり、タイムリーな情報や人としての誠実な対応がいかにありがたいものであるかを実感しました。

今度は日本にいて、外国人の方たちにわずかでも恩返しをすることができたらうれしく思います。

相談員は初めての経験で、分野も制度、法律、医療教育など多岐にわたり、毎日が勉強です。お困りの在住外国人の方に適切な情報を素早く提供できるように日々、努力を重ねていきたいと思っております。

【06】 JICAボランティア活動報告

■ JICAボランティア帰国報告会 JICA関西 市民参加協力課 山科 恵美

1月31日（土）、JICA関西でJICAボランティア帰国報告会を開催しました。関西2府4県出身で、2014年1月以降に帰国した33名のボランティアが現地での活動を報告しま

した。

【帰国報告会とは】

報告会は、国際協力とは何か？自分にできることは？現場で考え続けた熱い思いをぜひ皆さんに聞いてもらいたいと昨年度から開催しています。今年は、33人のボランティアが、5つの会場にわかれ、1人約15分の活動報告を行いました。現在派遣中のボランティアのご家族を含め約300人もの方々に来ていただきました。

【協力隊派遣50周年】

JICAボランティアのひとつ青年海外協力隊は、1965年に最初の隊員をラオスに派遣してから50年になります。今までに、約4万人の方々让世界88ヶ国で、現地の人々と一緒に活動してきました。50周年記念として、会場では来場者の皆さんに、世界の青年海外協力隊に笑顔をお届けるメッセージを書いてもらいました。「私も協力隊になりたい。」、ご家族からの「元気に帰ってきてね。」、お友達からの「今できることをがんばろう！」など、あたたかいメッセージがたくさん集まりました。

【大阪出身のボランティア】

今回は、9人の大阪府出身の帰国ボランティアが活動報告を行いました。その一人山下尚久（豊能郡）さんは、日本の民間企業で4年半勤務した後、中央アジアのキルギスに村落開発普及員として派遣されました。現地では、地域の特産物（アプリコットやリンゴなど）を利用して、商品の作成や既存の商品を改良し、観光客へ販売することで、現地住民の収入の向上を目指す活動を行っていました。同僚に、言われたことのみをするのではなく、創造力を培う仕事をしてもらいたいと、作業中も話し、同僚の意見を引き出すように努力されたそうです。そのために、いつも異なる文化や習慣の人々がどのような考え方、意見を持つのか自分で想定し、相手に応えられる用意をしていたそうです。よく考えると、それは日本の仕事でも同じことをしていたと実感された山下さん。どこで仕事をするのも基本は同じなのですね。

●帰国報告会で発表した大阪府出身ボランティア

氏名	派遣国	職種	出身市
濱川 喬弘	ミクロネシア	環境教育	大阪市
衛藤 志穂理	チュニジア	音楽	高槻市
奥田 ゆい	ペルー	村落開発普及員	富田林市
花本 愛子	ウガンダ	PCインストラクター	枚方市
谷口 賢太郎	タンザニア	環境教育	吹田市
杉山 遥	マラウイ	環境教育	河内長野市
福田 亮介	ボツワナ	経営管理	堺市
石川 敦子	キルギス	青少年活動	堺市
山下 尚久	キルギス	村落開発普及員	豊能郡

【懇親会】

報告会終了後の懇親会は、帰国ボランティアと直接話

